

令和3年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	生理学Ⅱ①	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	池田 沢子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	人体の仕組みを学び、生命現象の機序を理解する。			評価方法			
授業概要	人体の仕組みを学び、生命現象の機序を理解する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	生理学-第3版- 東洋療法学校協会	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布プリント				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	第10章 神経	ニューロンの構造と働き					
第2週	第10章 神経	神経線維の興奮伝導					
第3週	第10章 神経	シナプス伝達					
第4週	第10章 神経	中枢神経系の分類と機能					
第5週	第10章 神経	反射①					
第6週	第10章 神経	反射②					
第7週	第10章 神経	脊髄					
第8週	第10章 神経	脳幹					
第9週	第10章 神経	視床					
第10週	第10章 神経	視床下部					
第11週	第10章 神経	大脳①					
第12週	第10章 神経	大脳②					
第13週	第10章 神経	大脳③					
第14週	第10章 神経	大脳④、脳脊髄液					
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義内容をよく復習し、生体のしくみについての知識を深めること。						

令和3年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	生理学Ⅱ②	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	池田 沢子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	人体の仕組みを学び、生命現象の機序を理解する。			評価方法			
授業概要	教科書をベースにした資料を配布し、講義を行う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	生理学-第3版- 東洋療法学校協会	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布プリント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	第10章 神経	末梢神経系①					
第2週	第10章 神経	末梢神経系②					
第3週	第10章 神経	末梢神経系③					
第4週	第10章 神経	末梢神経系④					
第5週	第10章 神経	自律神経系①					
第6週	第10章 神経	自律神経系②					
第7週	第10章 神経	自律神経系③					
第8週	第10章 神経	自律神経系④					
第9週	第11章 筋	骨格筋の構造と働き①					
第10週	第11章 筋	骨格筋の構造と働き②					
第11週	第11章 筋	筋収縮の仕組み①					
第12週	第11章 筋	筋収縮の仕組み②					
第13週	第11章 筋	筋のエネルギー供給の仕組み					
第14週	第11章 筋	心筋と平滑筋					
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義内容をよく復習し、生体のしくみについての知識を深めること。						

令和3年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	東洋医学臨床論はりきゅう (西洋医学論) I ①	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	佐々木 一泰	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	臨床上、頻度の高い各疾患について、西洋医学的な知識を深める。また、各疾患に対する現代西洋医学的な鍼灸治療法を学び、更に応用できるようにする。			評価方法			
授業概要	教科書をベースにした資料を配布し、講義を行う。徒手検査などは実際に実技を行い、理解と技術の習得を行う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	東洋医学臨床論(はりきゅう編)	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布プリント				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	ガイダンス 治療各論 : 頭痛						
第2週	治療各論 : 頭痛 顔面痛						
第3週	治療各論 : 顔面麻痺						
第4週	治療各論 : 歯痛 ・ 眼精疲労						
第5週	治療各論 : 鼻閉 ・ 鼻汁 脱毛症						
第6週	治療各論 : めまい						
第7週	治療各論 : 耳鳴りと難聴						
第8週	治療各論 : 咳嗽 喘息						
第9週	治療各論 : 胸痛 腹痛						
第10週	治療各論 : 腹痛 悪心と嘔吐						
第11週	治療各論 : 便秘と下痢						
第12週	治療各論 : 月経異常						
第13週	治療各論 : 排尿障害 インポテンツ						
第14週	治療各論 : 肩こり①						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	講義内容をよく復習し、各疾患についての知識を深めること。						

令和3年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	東洋医学臨床論はりきゅう (西洋医学論) I ②	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	佐々木 一泰	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	臨床上、頻度の高い各疾患について、西洋医学的な知識を深める。また、各疾患に対する現代西洋医学的な鍼灸治療法を学び、更に応用できるようにする。			評価方法			
授業概要	教科書をベースにした資料を配布し、講義を行う。徒手検査などは実際に実技を行い、理解と技術の習得を行う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	東洋医学臨床論(はりきゅう編)	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布プリント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	治療各論 : 肩こり②						
第2週	治療各論 : 頸肩腕痛①						
第3週	治療各論 : 頸肩腕痛②						
第4週	治療各論 : 肩関節痛①						
第5週	治療各論 : 肩関節痛②						
第6週	治療各論 : 上肢痛①						
第7週	治療各論 : 上肢痛②						
第8週	治療各論 : 腰下肢痛①						
第9週	治療各論 : 腰下肢痛②						
第10週	治療各論 : 腰下肢痛③						
第11週	治療各論 : 膝痛①						
第12週	治療各論 : 膝痛②						
第13週	治療各論 : 運動麻痺						
第14週	治療各論 : 高血圧症 低血圧症						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義内容をよく復習し、各疾患についての知識を深めること。						

令和3年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床医学各論 I ①	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	加藤 孝紹	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	臨床に必要な各臓器の主な疾患について概念、疫学、成因や病態生理、症状、診断および治療などについて詳しく教授する			評価方法			
授業概要	教科書をベースに配布プリントを作成、配布し講義を進めていく。临床上必要な知識については別途資料を配布し知識を深めるようにする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	臨床医学各論	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布プリント				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	感染症 その1						
第2週	感染症 その2						
第3週	感染症 その3						
第4週	感染症 その4						
第5週	消化管疾患 その1						
第6週	消化管疾患 その2						
第7週	消化管疾患 その3						
第8週	消化管疾患 その4						
第9週	消化管疾患 その5						
第10週	肝、胆、膵疾患 その1						
第11週	肝、胆、膵疾患 その2						
第12週	肝、胆、膵疾患 その3						
第13週	肝、胆、膵疾患 その4						
第14週	肝、胆、膵疾患 その5						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義内容をよく復習し、各疾患についての知識を深めること。						

令和3年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床医学各論 I ②	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	加藤 孝紹	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	臨床に必要な各臓器の主な疾患について概念、疫学、成因や病態生理、症状、診断および治療などについて詳しく教授する			評価方法			
授業概要	教科書をベースに配布プリントを作成、配布し講義を進めていく。临床上必要な知識については別途資料を配布し知識を深めるようにする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	臨床医学各論	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布プリント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	呼吸器疾患 その1						
第2週	呼吸器疾患 その2						
第3週	呼吸器疾患 その3						
第4週	呼吸器疾患 その4						
第5週	腎、泌尿器疾患 その1						
第6週	腎、泌尿器疾患 その2						
第7週	腎、泌尿器疾患 その3						
第8週	内分泌疾患 その1						
第9週	内分泌疾患 その2						
第10週	内分泌疾患 その3						
第11週	内分泌疾患 その4						
第12週	代謝、栄養疾患 その1						
第13週	代謝、栄養疾患 その2						
第14週	整形外科疾患 その1						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義内容をよく復習し、各疾患についての知識を深めること。						

令和3年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	東洋医学臨床論はりきゅう (東洋医学編) I ①	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	柗木 明子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	演習により、各項目を順次理解し、鍼灸治療が行えるようにする。実際の臨床における能力向上のために、鍼灸治療体系の理解を深める。			評価方法			
授業概要	1年生の東洋医学概論の概念・解説を含みながら、主要症候の病因病機を理解し、鍼灸治療が行えるように、東洋医学領域の基礎知識の整理とともに、問題演習等を教授する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	東洋医学概論、 東洋医学臨床論(はりきゅう編)、 配布プリント	使用器材	PC、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	東洋医学的な考え方 五臓六腑の相互関係 ① (配布プリント参照)						
第2週	東洋医学的な考え方 五臓六腑の相互関係 ② (配布プリント参照)						
第3週	東洋医学的な考え方 五臓六腑の相互関係 ③ (配布プリント参照)						
第4週	東洋医学的な考え方 五臓六腑の相互関係 ④ (配布プリント参照)						
第5週	東洋医学的な考え方 五臓六腑の相互関係 ⑤ (配布プリント参照)						
第6週	東洋医学的な考え方 五臓六腑の相互関係 まとめ						
第7週	治療総論 東洋医学的な考え方 鍼灸の治療原理 (配布プリント参照)						
第8週	治療総論 東洋医学的な考え方 鍼灸の治療原則 ① (配布プリント参照)						
第9週	治療総論 東洋医学的な考え方 鍼灸の治療原則 ② (配布プリント参照)						
第10週	治療総論 東洋医学的な考え方 鍼灸の治療原則 ③ (配布プリント参照)						
第11週	治療総論 東洋医学的な考え方 鍼灸の治療方法 ① (配布プリント参照)						
第12週	治療総論 東洋医学的な考え方 鍼灸の治療方法 ② (配布プリント参照)						
第13週	治療総論 東洋医学的な考え方 鍼灸の治療方法 ③ (配布プリント参照)						
第14週	治療総論 東洋医学的な考え方 鍼灸の治療原理・原則・治療方法 まとめ						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、判らない所があったらそれを書き出しておくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和3年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	東洋医学臨床論はりきゅう (東洋医学編) I ②	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	柊木 明子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	演習により、各項目を順次理解し、鍼灸治療が行えるようにする。実際の臨床における能力向上のために、鍼灸治療体系の理解を深める。			評価方法			
授業概要	1年生の東洋医学概論の概念・解説を含みながら、主要症候の病因病機を理解し、鍼灸治療が行えるように、東洋医学領域の基礎知識の整理とともに、問題演習等を教授する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	東洋医学臨床論(はりきゅう編)、 配布プリント	使用器材	PC、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	治療総論 東洋医学的な考え方 ① (P5~7)						
第2週	治療総論 東洋医学的な考え方 ② (P5~7)						
第3週	治療各論 主要症候に対する鍼灸療法 1 頭痛 ① (P16~18)						
第4週	頭痛 ② (P16~18)						
第5週	2 顔面痛 (P20~21)						
第6週	3 顔面麻痺 (P24~25)						
第7週	4 歯痛 (P25~27)						
第8週	5 眼精疲労 (P28~29)						
第9週	小テスト						
第10週	6 鼻淵 (P31~32)						
第11週	7 脱毛症 (P31~32)						
第12週	8 めまい (P37~39)						
第13週	9 耳鳴りと難聴 (P40~42)						
第14週	主要症候に対する鍼灸療法 まとめ						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、判らない所があったらそれを書き出しておくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						



令和3年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	衛生学・公衆衛生学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	太田 和宏	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	人々の健康問題とそれを取りまく環境因子との相互関係に焦点と当て、地域住民の疾病予防、保健さらに進んで健康増進に寄与できるよう、公衆衛生活動の基礎的な知識とその考え方を身につける。			評価方法			
授業概要	教科書、および教科書をベースにしたプリント、スライドを用い講義を行う。			期末試験50% 中間試験50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	衛生学・公衆衛生学	使用器材	白板、プロジェクター				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	第1章 衛生学・公衆衛生学の意義 第2章 健康(1.健康の概要・2.健康増進:1)健康管理・2)健康増進)						
第2週	第2章 健康(2.健康増進:衛生行政・医療制度と医療保障) 第3章 ライフスタイルと健康(1.食品と栄養:2)保健機能食品)						
第3週	第3章 ライフスタイルと健康(1.食品と栄養:3)食品と疾病～・2.運動と健康)						
第4週	第4章 環境と健康(1.環境とは・2.日常生活環境:1)物理学的環境要因)						
第5週	第4章 環境と健康(2.日常生活環境:2)化学的・3)生物学的環境要因)						
第6週	第4章 環境と健康(3.環境問題)						
第7週	第5章 産業保健						
第8週	中間試験						
第9週	第6章 精神保健						
第10週	第7章 母子保健						
第11週	第8章 成人・高齢者保健						
第12週	第9章 感染症とその対策(1.感染症の意義と種類)						
第13週	第9章 感染症とその対策(2.発生要因・3.感染症予防の原則・4.免疫)						
第14週	第10章 消毒法						
第15週	第11章 疫学・第12章 保健統計						
授業外学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること 3 講義後、分からない所があれば講義後に先生に質問し、できるだけ当日中に理解すること						

令和3年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	病理学概論	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	池田 沢子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	病気の概念にはじまり、病気について理論面から理解するために病因、循環障害、炎症、腫瘍、免疫異常、アレルギー、先天奇形などの分類枠で、その理論的背景について解説する。			評価方法			
授業概要	教科書、および教科書をベースにしたプリント、スライドを用い講義を行う。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	病理学概論	使用器材	白板、プロジェクター				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	第1章 病理学とはどのような学問か 第2章 疾病についての基本的な考え方 第3章 病因 1. 病因の一般 2. 内因						
第2週	第3章 病因 3. 外因(栄養素の不足と過剰・物理的病因)						
第3週	第3章 病因 3. 外因(化学的病因・生物学的病因) 4. 小児疾患						
第4週	第4章 循環障害 1. ヒトの循環系 充血・うっ血 3. 貧血・虚血 4. 出血						
第5週	第4章 循環障害 5. 血栓症 6. 塞栓症 7. 梗塞 8. 水腫・浮腫・脱水症 9. ショック						
第6週	第5章 退行性病変 1. 萎縮 2. 変性(変性の概念・変性の分類)						
第7週	第5章 退行性変性 2. 変性(加齢と老化・生活習慣病) 3. 壊死と死						
第8週	第6章 進行性病変 1. 肥大と増殖 2. 再生 3. 化生 4. 移殖 5. 創傷治癒・組織内異物の処理						
第9週	第7章 炎症 1. 炎症の一般 2. 炎症の分類						
第10週	第8章 腫瘍 1. 腫瘍の一般						
第11週	第8章 腫瘍 2. 良性腫瘍 3. 悪性腫瘍						
第12週	第9章 免疫異常 1. 液性免疫と細胞性免疫 2. アレルギー						
第13週	第9章 免疫異常 3. 免疫不全 4. 自己免疫異常						
第14週	第10章 先天性異常 1. 先天性異常総論 2. 遺伝性疾患 3. 染色体異常						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						

令和3年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	解剖学Ⅱ①	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	星野 英二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1.消化器系を構成する各器官の構造・機能について説明できる。 2.泌尿器系を構成する各器官の構造・機能について説明できる。 3.生殖器系を構成する各器官の構造・機能について説明できる。			評価方法			
授業概要	人体の構造と機能を学び、鍼灸師として必要な基礎学力を身につけることを目的とする。			期末試験 50% 中間試験 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学	使用器材	パワーポイント				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	第4章 消化器系 1 消化管の基本構造 (1)粘膜						
第2週	2 口腔 (1)口蓋・軟口蓋 (2)口峽と扁桃 (3)舌 (4)歯 (5)唾液腺						
第3週	3 咽頭 4 食道 5 胃						
第4週	6 小腸 (1)十二指腸 (2)空腸と回腸 (3)小腸の組織構造と機能						
第5週	7 大腸 (1)盲腸 (2)結腸 (3)直腸 (4)大腸の組織構造と機能						
第6週	8 肝臓 (1)肝臓の位置と形状						
第7週	(2)肝臓の組織構造						
第8週	9 胆嚢 10 膵臓 11 腹膜						
第9週	中間試験						
第10週	第5章 泌尿器系 1 腎臓 (1)腎臓の構造 (2)腎臓の血管						
第11週	2 尿路 (1)尿管 (2)膀胱 (3)尿道						
第12週	第6章 生殖器系 1 男性生殖器 (1)精巣 (2)精路 (3)外生殖器(外陰部) 4)精液						
第13週	2 女性生殖器 (1)卵巣 (2)卵管 (3)子宮 (4)膣 (5)外生殖器(外陰部)						
第14週	3 受精と発生 (1)受精 (2)卵割 (3)着床 (4)胚葉の形成 (5)胎盤						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和3年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	解剖学Ⅱ②	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	星野 英二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1.内分泌系を構成する各器官の構造・機能について説明できる。 2.神経系を構成する各器官の構造・機能について説明できる。 3.感覚器系を構成する各器官の構造・機能について説明できる。			評価方法			
授業概要	人体の構造と機能を学び、鍼灸師として必要な基礎学力を身につけることを目的とする。			期末試験 50% 中間試験 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学	使用器材	パワーポイント				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	第7章 内分泌系 1 下垂体 2 松果体						
第2週	3 甲状腺 4 上皮小体						
第3週	5 副腎 6 膵臓 7 性腺						
第4週	第8章 神経系 1 神経系の構成 2 中枢神経 (1) 脊髄						
第5週	(2) 延髄と橋 (3) 中脳 (4) 小脳 (5) 間脳						
第6週	(6) 大脳 (7) 脳室系 (8) 髄膜 (9) 脳脊髄液 (10) 脳の血管						
第7週	中間試験						
第8週	3 伝導路 (1) 反射路 (2) 下行性伝導路 (3) 上行性伝導路						
第9週	4 末梢神経 (1) 脳神経						
第10週	(2) 脊髄神経 (3) 前枝と後枝						
第11週	(4) 上肢の神経 (5) 下肢の神経						
第12週	(6) 自律神経(交感神経、副交感神経)						
第13週	第9章 感覚器系 1 視覚器 (1) 眼球 (2) 眼球の付属器						
第14週	2 平衡感覚器 (1) 外耳 (2) 中耳 (3) 内耳 3 味覚器 4 嗅覚器						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和3年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床医学総論①	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院勤務6年(脳神経、鍼灸治療全般)	担当	原 敬昌	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 医療従事者として患者に接する上で大切な事を理解する。 2 診察方法について学び、生体に対する観察力を身につける。 3 解剖生理学に基づいて正常と異常を区別することができる。			評価方法			
授業概要	医療面接、現症から始まる診察の過程を学習し、さらに様々な症候をまなぶこと によって患者の持っている異常を的確に把握し、それに対する評価と正確な診断 のための計画の構築といった診断学の基本を学ぶ。前期では、医療面接、身体視 診の概要について医学的知識から病態把握を理解させる。			期末試験 90% 課題提出 10% (100点換算で60点以上は合格)			
教科書等	1)臨床医学総論 第2版	使用器材	PC及びタブレット、液晶プロジェクター、ホワイトボード				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	「ガイダンス、診察の概要、医療面接」 診察で大切な心得、患者に対する配慮や説明などを 学ぶ。実際の診察で、まず患者が抱えている問題点や背景を把握し、簡潔に診療録にまと める作業を実践して学ぶ。教科書1)pp.1-18						
第2週	「身体診察の概要」 医療面接で得た問題点について、身体診察で確認する方法(視診・触 診・打診・聴診)を学ぶ。 教科書1)pp.19-28						
第3週	「生命徴候(バイタルサイン);体温、脈拍」 生命を維持する基本的な項目を学び、そのしくみ と異常を学ぶ。 教科書1)pp.29-33, pp.239-241						
第4週	「生命徴候(バイタルサイン);血圧」 生命を維持する基本的な項目を学び、そのしくみと異常 を学ぶ。血圧では、実践を通して測定手順や注意点について理解する。 教科書1)pp.34-6						
第5週	「生命徴候(バイタルサイン);呼吸」 生命を維持する基本的な項目を学び、そのしくみと異常 を学ぶ。 教科書1)pp.37-9, p.170						
第6週	「全身の診察;願望、顔色」 患者の特徴的な顔貌、顔色が示す病態について学ぶ。 教科書1)pp.42-3						
第7週	「全身の診察;精神状態」 患者の覚醒度と認識機能の2つの要素からとらえ、意識障害の分 類や評価および知能低下(知的障害や認知症)について学ぶ。 教科書1)pp.43-5, 264-6, 281-3						
第8週	「全身の診察;言語」 患者の発声や会話の困難といった言語障害を分類し、それぞれが示す 病態について学ぶ。 教科書1)pp.46-7 p.254						
第9週	「全身の診察;身体計測・体型」 身長や体重からみた体格の異常について分類し、それぞ れが示す病態について学ぶ。 教科書1)pp.48-52, 234-8						
第10週	「全身の診察;姿勢・体位」 患者の特徴的な姿勢や体位が示す病態について学ぶ。 教科書1)pp.52-4, 98-9, p.127, 172						
第11週	「全身の診察: 歩行」 患者の歩行状態を観察し、特徴的な歩行が示す病態について学ぶ。 教科書1)pp.54-6, 140-1						
第12週	「全身の診察: 皮膚・粘膜・皮下組織」 患者の皮膚、粘膜から観察される色調や発疹を分類 し、感染症や膠原病などでみられる発疹について学ぶ。 教科書1)pp.57-64, 219-22, 244-6						
第13週	「全身の診察: 爪、リンパ節」 患者の爪の形態異常、あるいは表在性リンパ節腫脹が観察 されたときに示す病態について学ぶ。 教科書1)pp.65-7, 82-4, 102-3, 251-2						
第14週	「総まとめ」 学習内容の補填や試験対策などを行う。						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 身体診察から異常所見を見つけるために、健常状態と比較する必要があります。解剖・生理学は、その健常状態を知る科 目です。本授業で触れた分野の解剖・生理について、もう一度復習をしましょう。 2 また本授業の復習のきっかけとして、各配布プリントにはキーワードチェックと課題が設けてあります。キーワードが自分な りに口頭で説明できない場合は、その単語について調べノートにまとめましょう。課題は、授業の理解度の確認、復習および 自分専用の試験対策まとめノートとして、チェックさせていただきますので提出してください。						

令和3年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床医学総論②	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院勤務6年(脳神経、鍼灸治療全般)	担当	原 敬昌	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 診察方法について学び、生体に対する観察力を身につける。 2 解剖生理学に基づいて正常と異常を区別することができ、かつ見逃してはならないRed flag signを理解する。 3 医療面接、身体診察法を身につけ医学的臨床能力として活用できる。			評価方法			
授業概要	医療面接、現症から始まる診察の過程を学習し、さらに様々な症候をまなぶことにより患者の持っている異常を的確に把握し、それに対する評価と正確な診断のための計画の構築といった診断学の基本を学ぶ。中期では、各部位の身体診察や神経学的診察について医学的知識から病態把握を理解させる。			期末試験 90% 課題提出 10% (100点換算で60点以上は合格)			
教科書等	1)臨床医学総論 第2版	使用器材	PC及びタブレット、液晶プロジェクター、ホワイトボード				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	「前期試験の解説」						
第2週	「全身の診察;食欲、睡眠」 食欲、睡眠に関わる内容を確認し、食欲不振、悪心・嘔吐や食欲亢進状態、不眠になる病態について学ぶ。 教科書1)pp.68-9, 169-70, 232-4, 242-3, 259-61						
第3週	「全身の診察;排便、排尿」 排便、排尿に関わる内容を確認し、下痢、便秘、多尿、乏尿、無尿、尿閉、蓄尿症状、排尿症状、排尿後症状が出現する病態について学ぶ。 教科書1)pp.69-70, 159-62, 206-11, 214-8						
第4週	「局所の診察;頭部、顔面」 頭部の診察でみられる所見を確認し、それぞれが示す病態について学ぶ。 教科書1)pp.72-3, 182-5, p.124						
第5週	「局所の診察;眼」 視力、視野、眼球運動、眼球、眼瞼の異常や眼振が示す病態について学ぶ。 教科書1)pp.74-8, p.124, 187, 252						
第6週	「局所の診察;耳鼻、口腔、咽喉頭、頸部」 耳鼻、口腔、咽喉頭、頸部の診察でみられる所見を確認し、それぞれが示す病態について学ぶ。 教科書1)pp.78-84, p.126, 186, pp.188-92, p.255						
第7週	「局所の診察;胸部(肺)」 胸郭形態の異常や肺野の打診音の評価、聴診器を用いた呼吸音の評価が示す病態について学ぶ。 教科書1)pp.23-5, 84-7, 195-8						
第8週	「局所の診察;胸部(心臓)」 心尖拍動や心音の異常、心雑音が示す病態について学ぶ。 教科書1)p.25, pp.88-9, p.169, 198-202						
第9週	「局所の診察;腹部、背部」 腹壁から観察される所見や腹部の聴診、打診の評価、圧痛点や腹膜刺激症状が示す病態について学ぶ。 教科書1)p.26, pp.90-9, 203-6						
第10週	「局所の診察;四肢」 四肢の変形が示す、局所のおよび全身的な病態について学ぶ。 教科書1)pp.100-4						
第11週	「神経学的診察;脳神経系の診察」 神経系全体を系統別に分け、脳神経系の診察法と評価について学ぶ。 教科書1)p.123-5						
第12週	「神経学的診察;運動系」 神経系全体を系統別に分け、(随意運動、不随意運動、協調運動に対する)運動麻痺の診察法と評価について学ぶ。 教科書1)p.129-39,						
第13週	「神経学的診察;感覚、反射」 神経系全体を系統別に分け、感覚や運動の伝導路に基づいた診察法や評価について学ぶ。 教科書1)p.106-22						
第14週	「神経学的診察;理学検査」 これまでの神経学的診察に加えて、徒手筋力検査や整形外科的検査、髄膜刺激症状について学ぶ。教科書1)pp.142-51 「総まとめ」 学習内容の補填や試験対策などを行う。						
第15週	まとめ						
所見 反映事項	1 身体診察から異常所見を見つけるために、健常状態と比較する必要があります。解剖・生理学は、その健常状態を知る科目です。本授業で触れた分野の解剖・生理について、もう一度復習をしましょう。 2 また本授業の復習のきっかけとして、各配布プリントにはキーワードチェックと課題が設けてあります。キーワードが自分なりに口頭で説明できない場合は、その単語について調べノートにまとめましょう。課題は、授業の理解度の確認、復習および自分専用の試験対策まとめノートとして、チェックさせていただきますので提出してください。						

令和3年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技 ①	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務に従事中	担当	和泉尚子	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	基礎鍼灸術((片手挿管法、切皮、旋撚法、送り込み刺法、雀啄法等)を習得する。また各部位における基本的な刺鍼法を修得する。			評価方法			
授業概要	担当教員が当日の施術について説明し、その後ペアを組み実際の治療と同様の流れで施術を進めていく。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	経絡経穴概論	使用器材	ステンレス鍼、艾、線香、ライター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	基礎鍼灸術①						
第2週	基礎鍼灸術③						
第3週	基礎鍼灸術⑤						
第4週	基礎鍼灸術⑦						
第5週	基礎鍼灸術⑨						
第6週	基礎鍼灸術(上肢)①						
第7週	基礎鍼灸術(上肢)②						
第8週	基礎鍼灸術(上肢)③						
第9週	基礎鍼灸術(下肢)①						
第10週	基礎鍼灸術(下肢)②						
第11週	基礎鍼灸術(下肢)③						
第12週	基礎鍼灸術(腰部)①						
第13週	基礎鍼灸術(腰部)②						
第14週	基礎鍼灸術(腰部)③						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						

令和3年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技 ②	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務に従事中	担当	和泉 尚子	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	基礎鍼灸術((片手挿管法、切皮、旋撚法、送り込み刺法、雀啄法等)を習得する。また各部位における基本的な刺鍼法を修得する。			評価方法  定期試験 100%  (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	担当教員が当日の施術について説明し、その後ペアを組み実際の治療と同様の流れで施術を進めていく。						
教科書等	経絡経穴概論 痛みのマネジメント	使用器材	ステンレス鍼、皮内鍼				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	基礎鍼灸術②						
第2週	基礎鍼灸術④						
第3週	基礎鍼灸術⑥						
第4週	基礎鍼灸術⑧						
第5週	基礎鍼灸術⑩						
第6週	基礎鍼灸術と診察①						
第7週	基礎鍼灸術と診察②						
第8週	基礎鍼灸術と診察③						
第9週	基礎鍼灸術と診察④						
第10週	基礎鍼灸術と診察⑤						
第11週	基礎鍼灸術と診察⑥						
第12週	基礎鍼灸術と診察⑦						
第13週	基礎鍼灸術と診察⑧						
第14週	基礎鍼灸術と診察⑨						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						



令和3年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技 ③	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	太田和宏	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 鍼灸臨床で頻用する経穴を取穴出来るようになる。 2. 取穴した経穴に施灸できる技術を身につける。			評価方法			
授業概要	灸臨床に必要な各部位の取穴技術と基本的な施灸技術を修得する。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	ツボ単	使用器材	白板、ベッド、鍼灸治療道具				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足陽明胃経の下腿部の取穴と施灸						
第2週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足陽明胃経の足部・下腿部の取穴と施灸						
第3週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足太陰脾経の下腿部の取穴と施灸						
第4週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足太陰脾経の足部・下腿部の取穴と施灸						
第5週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足太陽膀胱経の下腿部の取穴と施灸						
第6週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足太陽膀胱経の足部・下腿部の取穴と施灸						
第7週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足少陰腎経の下腿部の取穴と施灸						
第8週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足少陰腎経の足部・下腿部の取穴と施灸						
第9週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足少陽胆経の下腿部の取穴と施灸						
第10週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足少陽胆経の足部・下腿部の取穴と施灸						
第11週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足厥陰肝経の下腿部の取穴と施灸						
第12週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足厥陰肝経の足部・下腿部の取穴と施灸						
第13週	ペーパーに施灸(半米粒大) 腹部募穴の取穴と施灸						
第14週	ペーパーに施灸(半米粒大) 腹部募穴の取穴と施灸						
第15週	ペーパー施灸とまとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						

令和3年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はり・きゅう実技 ①	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務に従事中	担当	和泉尚子	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	特殊鍼法、各流派の治療法を修得する。			評価方法			
授業概要	担当教員が当日の施術について説明し、その後ペアを組み実際の治療と同様の流れで施術を進めていく。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	痛みのマネジメント	使用器材	ステンレス鍼、皮内鍼、ノイロメーター、通電装置				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実 施 結 果	
第1週	基礎鍼灸術(腰部)④						
第2週	基礎鍼灸術(腰部)⑤						
第3週	基礎鍼灸術(腰部)⑥						
第4週	基礎鍼灸術(腰部)⑦						
第5週	基礎鍼灸術(腰部)⑧						
第6週	基礎鍼灸術(腰部)⑨						
第7週	皮内鍼①						
第8週	皮内鍼②						
第9週	耳鍼療法①						
第10週	耳鍼療法②						
第11週	頭鍼療法①						
第12週	頭鍼療法②						
第13週	手部鍼療法						
第14週	足部鍼療法						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						

令和3年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技 ②	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務に従事中	担 当	和泉 尚子	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	基礎鍼灸術を身体各部位に行う。また美容鍼の基礎的技術を習得する。			評価方法			
授業概要	担当教員が当日の施術について説明し、その後ペアを組み実際の治療と同様の流れで施術を進めていく。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	経絡経穴概論	使用器材	ステンレス鍼、艾、線香、ライター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	基礎鍼灸術と診察⑩						
第2週	脈診の実際①						
第3週	脈診の実際②						
第4週	脈診の実際③						
第5週	脈診の実際④						
第6週	脈診の実際⑤						
第7週	脈診の実際⑥						
第8週	基礎鍼灸術(腹部)①						
第9週	基礎鍼灸術(腹部)②						
第10週	基礎鍼灸術(腹部)③						
第11週	基礎鍼灸術(腹部)④						
第12週	基礎鍼灸術(胸部)①						
第13週	基礎鍼灸術(胸部)②						
第14週	基礎鍼灸術(胸部)③						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						

令和3年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技 ③	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	太田和宏	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 鍼灸臨床で頻用する経穴を取穴出来るようになる。 2. 取穴した経穴に施灸できる技術を身につける。			評価方法			
授業概要	灸臨床に必要な各部位の取穴技術と基本的な施灸技術を修得する。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	ツボ単	使用器材	白板、ベッド、鍼灸治療道具				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	ペーパーに施灸(半米粒大) 背部要穴の取穴と施灸						
第2週	ペーパーに施灸(半米粒大) 背部要穴の取穴と施灸						
第3週	ペーパーに施灸(半米粒大) 背部要穴の取穴と施灸						
第4週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手太陰肺経の手部・前腕部の取穴と施灸						
第5週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手太陰肺経の手部・前腕部の取穴と施灸						
第6週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手陽明大腸経の前腕部の取穴と施灸						
第7週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手陽明大腸経の手部・前腕部の取穴と施灸						
第8週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手少陰心経の手部・前腕部の取穴と施灸						
第9週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手少陰心経の手部・前腕部の取穴と施灸						
第10週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手太陽小腸経の前腕部の取穴と施灸						
第11週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手太陽小腸経の手部・前腕部の取穴と施灸						
第12週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手厥陰心包経の手部・前腕部の取穴と施灸						
第13週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手厥陰心包経の手部・前腕部の取穴と施灸						
第14週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手少陽三焦経の手部・前腕部の取穴と施灸						
第15週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手少陽三焦経の手部・前腕部の取穴と施灸						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						